

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	<b>55</b>	実施計画番号	103
事務事業名	十和田市高齢者等肉用牛導入事業		事業開始年度 平成19年度
担当課名	農林畜産課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	十和田市高齢者等肉用牛導入事業基金条例	関連事務事業	
背景や経緯等	平成18年度までは十和田市肉用牛特別導入事業として国、県からの補助を受け実施してきたが、国の補助事業の終了に伴い平成19年度からは県からの補助を受け、十和田市高齢者等肉用牛導入事業として実施している。		
事務事業の目的	肉用牛資源の確保を図るとともに、畜産振興のため高齢者等の肉用牛飼養知識及び経験を有効に活用し、かつ福祉の向上に資することを目的とする。		
実施状況	平成25年度は5頭の貸付を実施した。また、これまで(H19～)の貸付牛が平成25年度中に34頭子牛を生産している。		

### 【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	15	15	15
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

### 【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	4,221	2,507	6,000
うち一般財源			
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他	4,221	2,507	6,000

### 【指標】

活動指標	活動指標名①	肉用雌牛の貸付			
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
		頭	9	5	10
	活動指標名②	子牛生産頭数			
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
		頭	36	39	40
成果指標	成果指標名①	肉用雌牛の貸付			
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度
		頭	目標値 10	10	10
			実績値 9	5	
			達成度(%) 90%	50%	
	成果指標名②	子牛生産頭数			
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度
		頭	目標値 58	39	40
		実績値 36	34		
		達成度(%) 62%	87%		

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	55
計画No	103

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 <b>0 / 4</b>	
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		市内に居住する60歳以上の農業従事者を対象に貸付けすることにより、肉用牛資源確保及び高齢者の生きがいづくり等の福祉向上も図られており、事業の妥当性は十分にあると考えられる。	
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 <b>0 / 6</b>	
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		当該事業で貸付けしている肉用雌牛は、経済動物であることから、経済状況の影響で貸付け頭数に変動があるが、借受希望者に対しては順調に貸付けしている。	
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 <b>0 / 6</b>	
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		当該事業は、青森県家畜導入事業に基づき、十和田市高齢者等肉用牛導入事業基金を設置し、効率的に実施されている。	
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 <b>0 / 4</b>	
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		当該事業による貸付けは、市高齢者等肉用牛導入事業基金条例に基づき、貸付けを1世帯・1頭、貸付期間は5年間、譲渡は期間満了時に取得価格に相当する額で譲渡することになり、公平かつ適切な貸付けを行っている。	
<b>現在の適性</b>					<b>20 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>0 / 20</b>

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
当該事業での償還が平成24年度から開始されおり、基金に繰り入れることにより基金(事業費)が増額となっているため、貸付けを増頭する。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
平成24年度以降、肉用雌牛の貸付けを増頭し更なる肉用牛の資源の確保と、畜産振興の一助となる高齢者等の肉用牛飼養知識及び経験を有効に活かしていく。